



# Via Latina 22

2022年4月 309号

## 総本部よりのお知らせ－マリア会

### フランス管区、地区へ移行（2022年3月29日火曜日）

2016年10月、フランス管区会議は、管区から地区に移行する決定を行いました。この決定は、地区としての構造が管区よりも柔軟性があり、身軽で、行政単位の生活と宣教活動にとってより相応しいとの認識が動機となりました。もしパンデミックが起こっていなければ、この移行はもっと早く実現されるはずでした。しかしこの移行は最終的には2022年8月15日に行われます。



2017年にフランスにあるマリアニスト教育事業体の生徒たちがルルドに集まりました

このように、代議員から表明された要請に応じて、総長は3月29日火曜日、総長評議員会の同意を得て、フランス管区を廃してフランス地区を設立することを決定しました。この地区は現在の管区の全てメンバーを統合します。この地区は現在の管区の活動を継続し、またコートジボアール従属地区とコンゴ特別地区への責任を保持し続けます。

この地区の全会員、そのリーダーたち、そしてその宣教活動に協働しているすべての人々に対して、私たちは彼らがこの地区の新たな局面へ移行するに当たり、私たちの支援と祈りを約束します。この地区の全ての会員と協働者にとってこの移行が生活と奉仕の刷新の機会となりますように。

## チリ地区での終生誓願式

Mauricio Silva士が2022年2月5日、チリ、サンチャゴの柱の聖母共同体でミサの祭儀の中で終生誓願を宣立しました。この誓願式はチリのマリアニスト家族の年次黙想会を締めくくるミサの中で行われました。



パンデミックのために、この誓願式に参列する人数は削減されました。マリアニストの同僚だけが誓願式に出席出来ました。しかし多くの人々がインターネットで誓願式を見ることが出来ました。José María Arnaiz師が誓願式を執り行い、彼の誓願を受け入れました。

Mauricioは教育に大変熱心なマリアニストです。彼はチリのリナレスにマリア会が所有する2つの学校で働いています。さらに彼は若者たちの指導に深く係っています。Mauricioはマリア会員たちから大変尊敬され、愛されています。

---

## ローマ、シャミナード国際神学校への年次訪問

シャミナード国際神学校への教会法上の訪問が2022年3月25日から29日にかけて行われました。この訪問のための諸準備は、パンデミックの規制がまだ厳しく実施されていた1月になされました。これらパンデミック規制は訪問者チームのメンバー選定を制限するものでした。この訪問チームはヨーロッパマリアニスト協議会（CEM）議長、José María Alvira士と霊生局長、Pablo Rambaud 師の2名で構成されました。

訪問は、マリアへのお告げの祝日でありマリアニスト家族の保護の祝日である3月25日に始まりました。このために、訪問はローマのマリアニスト小教区（Santo Nome di Maria）で家族の式典に参加した全ての人たちと共に始まりました。二人の訪問者たちは、例年のように神学校共同体の日程に従い、神学生およびその養成者たちと食事をし、祈りを捧げて、神学校共同体の生活を分かち合いました。訪問者たちは神学生たちおよび養成者チームと個別に面談しました。

両訪問者は彼らが受けた歓迎に感謝しています。自分たちが受けている養成を神学生たちが高く評価していると両訪問者は感じました。この評価はマリアニスト養成と学業的養成の両方のプログラムを含んでいます。彼らはまた神学校の兄弟的力強さと養成者との絆も高く評価しています。



神学校共同体 訪問委員会とともに

この訪問の終わりに、この委員会は拡大総長評議員会にその報告書を提出し、その後それを神学校共同体に伝達しました。委員会は自分たちが気づいたこと、そして将来に向けての提案を神学校共同体と分ち合いました。書面での公式報告書はマリア会の全行政単位の責任者に送付されます。

---

## 拡大総長評議員会のバーチャル会議（2022年3月29日）



3月29日火曜日、拡大総長評議員会のオンライン会議が行われました。この会議は総長評議員会と5名のゾーン議長を含むものです。拡大総長評議員会は国際神学校に対して監督と支援の責務があります。このために、最初の討議は神学校への訪問についての報告に焦点が当てられました。

この会議の2番目の目的は、来る7月、ローマで開催される総指導者会議の準備に関して様々な意見を分ち合うことでした。発展途上の行政単位の上長会議がこの総指導者会議に先立って行われます。最後に、私たちは各ゾーンからのニュースを分ち合いました。

私たちは、そのマリア会への奉仕の仕事に対して、ゾーン議長たちに感謝します。

---

## マリアニスト家族の保護の祝日

昔からの古い伝統として、キリスト教の教会は3月25日に、み言葉の受肉の神秘を神のお告げの祝日として祝っています。この日付は春の始まりと生命の再生と符合しています。御父の永遠のみ言葉は、人間性を取ることによってそれを神的なものとし、こうして私たちは救われます。イエス・キリストは新しい人であり、全ての被造物と救いの歴史を新たにされます。

この救いの秘義はマリアニスト家族の保護の祝日として選ばれました。なぜでしょうか？それは、

おとめマリアの“はい”が、私たちの人間性を救うためにそれをお取りになり、私たち人間の歴史に入られたみ言葉であるイエス・キリストへの入り口（ドアー）であったからです。この祝日はマリアの体内でのみ言葉の受肉の祝日です。この祝日はまた、世界におけるマリアの使命を受け継ぐ以外の何物でもないマリアニスト召命の祝日でもあります。このように、マリアニスト家族はキリストに扉を開き、全ての人にキリストを告げ知らせたいと望んでいるのです。



フラ アンジェリコによる“お告げ”

マリアニスト男女修道会と信徒マリアニスト共同体のメンバーで構成されているローマにあるマリアニスト家族は、3月25日（金）18：30、ミサのために「マリアの御名」マリアニスト小教区共同体に集まりました。私たちはマリアニスト家族という賜物を祝い、それを神に感謝しました。さらに、この機会のためにローマの信徒マリアニスト共同体によって準備され提案された祈りを捧げました。ミサ聖祭はマリア会総長、André-Joseph Fétis師によって司式されました。現在ローマに在住している数人のマリアニスト司祭が総長司式に加わりました。Antonio Collicelli師はその説教の中で、私たちの世界が今日とても必要としている正義と平和の世を求める希望への扉を開くマリアの“はい”を観想するよう全マリアニスト家族に勧めました。

## アメリカ合衆国での初期養成会議

霊生局長、Pablo Rambaud 師は、3月10日－13日に合衆国管区とメリバ管区によってオハイオ州、デイトンのベルガモ・センターで開催された養成会議に出席しました。これらの会議は年2回開催されており、合衆国とメリバ管区、およびFMIの初期養成の様々な段階にいる全ての人たちと、合衆国にいる韓国地区からの人たちが一緒になります。

14名の若者たち（志願者、修練者、そして有期誓願者）が彼らの養成者と共にこの会議に参加しました。この会議のテーマは清貧の誓願についてでした。この清貧の誓願の考察を支援するために、私たちはマリスタ(FMS)修道士、Don Bissonにガイダンスをして頂き、同時に、私たちSMとFMIからも数名のパネラーに参加してもらいました。

この会議の間に、参加者たちはまたデイトンのシャミナード-ジュリエンス高校を訪れ、何人かの生徒たちと合う機会がありました。更に、私たちはミサに与り、シエナ・ウッズ共同体／療養ホームのマリアニスト修道者たちと夕食を共にしました。



パプロ師とともに集まった参加者と養成担当者  
ベルガモ・センターの聖堂で

このような養成会議は、異なる行政単位と異なる養成段階にある若者および養成者間の絆を強めます。

## CLAMAREDは世界的教育協定に積極的に関わっています



ラテンアメリカのマリアニスト教育ネットワーク（CLAMARED）は、教皇フランシスによる世界的教育協定への呼びかけがなされて以来、率直的活動を重ねてきました。2022年3月25日金曜日に、このネットワークは彼らが“ラテンアメリカのマリアニスト教育に関する宣言”と称するものに署名するというこの協定を支持する象徴的行動をとることによって、更に次の段階へ進みました。

この行為で、一方では、彼らは今の時代の全ての男女への奉仕において刷新された教育へのマリアニストとしての関わりを表明しようとしていますし、他方では、聖霊と歴史の持つ新しさに開かれたカリスマ家族の一部であるとの自覚に成長したいとの熱望を表明しています。このようなやりかたで、彼らは自分たちの教育ネットワークの実情を強化したいと望んでいます。

この会議はズーム方式で行われ、ラテンアメリカの各教育事業が参加し、リーダーたちはマリアニスト教育活動のもつインスピレーションの源泉と目標を公的に表明している宣言にサインしました。更に、この会議は、世界的教育協定に含まれる指針を促進し、それを実践するという彼らの誓約を宣言しています。下記に、ラテンアメリカの教育活動の責任者と主要リーダーによって署名された宣言の全文を送付します。更に学ぶためには、このYouTubeリンクをクリックしてください：

<https://www.youtube.com/watch?v>



SMとFMIの両教育局長によって共同で出された回章によれば、世界的教育協定とマリアニスト教育に関する会議が今年10月18日と19日に計画されているのが分かります。この会議には全世界の私たちマリアニスト教育関係者全員が係わることになります。ラテンアメリカのマリアニスト教育ネットワーク（CLAMARED）の経験は、この件に関してインスピレーションの源泉となり得るでしょう。

## MIGUEL ÁNGEL QUIROGA (MICHEL)

### “berrquera”の生涯

“berrquera”はコロンビアで、力、勇気、決断そして献身を表現するために使用される言葉です。私たちの兄弟Miguel Ángel Quirogaは自分の部屋にまさにこの「berrqueraの生涯」という貼り紙をしていました。彼にとって、このように生きた人生の源泉はイエスと彼の福音にありました。おそらくそのことが、自分と旅をしていた人を囚人として拘束しようとした不法で暴力的なグループに立ち向かうのを彼が躊躇しなかった理由です。その結果、彼は胸を撃たれて死にました。それは1998年9月18日でした。その時、彼は26歳でした。



Michelは1972年コロンビアのクンディナマルカ県で農業労働者の家庭に生まれました。けれども彼の家族は間もなくボゴタに移住し、そこでMichelは成長し、マリアニストと出会いました。彼の召命が生まれたのはこのマリアニストと接触したことにありました。彼は1992年に初誓願を宣立しました。1998年1月、彼はチョコ県にあるリョロのマリアニスト共同体に配属されました。そこは太平洋に面しており、ジャングルと幾つかの大河が流れる地域であり、人種的にはアフリカを起源とする人々が居住し、また土着の共同体もありました。

そのころ、そこはゲリラや軍隊、そして準軍隊グループによって引き起こされる暴力によって苦しめられている地域でした。この暴力は常に上記のいずれかの権力乱用によって苦しむ一般住民への危害をもたらしていました。Michelが殺害された日、彼はリョロ小教区のマリアニスト司祭、José María Gutiérrezと約40名のグループとともに河に沿って旅をしていました。準軍隊の1グループが彼らの進路を阻止しました。そうする権限も無いのに、準軍隊は彼らの身分証を求めました。その中の1名が身分証を持っていませんでした。その理由で準軍隊は彼を拘束しようとした。Michelは抗議しました、そしてそれだけで彼らはMichelを殺害しました。

このような彼の人生の結末は、事実、彼が修道生活における歩みを始めてから徹底して生きた主への献身の表現です。彼の真剣な祈りの生活、彼の喜び、そして彼の宣教への献身は、非常に明白でした。内部からMichelを動かしていたもの、彼の心底からの熱望、それは聖体拝領後、彼が毎日個人的に行っていた祈りの中に強く表れています：

主イエスよ、  
あなたの命を私の命と一つにしてください、  
私の命をあなたの命と一つにしてください、  
私たちの命を他の人たちの命と一つにしてください、  
そうすれば、私は復活された方の足跡をたどり、  
マリアニストの生き方に従って  
貧しい人々や排除された人々に奉仕して、  
分ち合い、より人間らしくなる方法を知るようになり、  
また、正義、命、そして解放を通して  
私たちの父である神の国を  
少しずつこの世界に打ち建てる方法を知るようになります。アーメン。



コロンビアのマリアニスト修道者の会合  
ミゲルは前列中央

Michelの存在は、彼の同僚である修道者たちと共同体の外の多くの人たちの人生を啓発しました。そして彼はその死後も、コロンビアのマリアニスト家族がイエスに付き従うのを鼓舞し続けています。更に、彼の模範は、“Michelグループ”と称されるものを通して、コロンビア地区の私たちの宣教事業に関わる多くの青少年や若者たちを励まし続けています。

マリア会はキブドの司教に司教区段階での列福調査の開始を依頼しました。この場合、列福調査開始の理由は、2017年、教皇フランシスによって創設された、“英雄的な愛の行為によって自分の命を捧げること”による、列福への新たな道となります。

## Vicente師のPositio (列福運動準備資料)に賛成の投票

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、UraldeのVicente Lopez師の列福調査は続いています。神の奉仕者の英雄的美徳に関する *Positio* が3月1日、神学者の審議会で審議されました。この審議会は8名の神学者顧問と1名の証聖官から構成されています。全体で9票あります。9票のうち8票が肯定的で1票が否定的でした。審議会メンバーはVicente師が信仰、希望、愛の3つの対神徳を、また同時に賢明、正義、節制と剛毅の4つの枢機徳を、英雄的レベルで実践したと判断しました。加えて、彼は修道生活に特有な徳（誓願、祈り、謙遜、マリアへの献身 ...）を、また同時に司祭職に特有な徳（ご聖体への愛、熱心な司牧活動、秘跡の実行 ...）を実践しました。



Vicente師の列福調査に関する次のステップは何でしょうか？教皇庁列聖省は、Vicente師が3つの対神徳と4つの枢機徳を英雄的レベルで実践したかどうかについて投票する枢機卿と司教による会議—教皇の真の評議員会—の日程を決定することになります。もしこの投票が肯定的であれば、それから教皇庁列聖省長官はこの票を教皇に提出し、教皇はVicente師の英雄的美徳の称号を発布する権限を列聖省長官に与えます。私たちがVicente師の列福調査に関する肯定的なニュースを受け取るよう、キリストと私たちの母マリアに私たちの希望を託しましょう。

---

## 四旬節：天と地における希望の時期

神の深い慈愛は私たち自身の慈愛の行為を通して明らかになります。別言すれば、お互いとの私たちの関係を和解させることなしには、神との私たちの関係を和解させることは出来ません。関係を和解させるとは、単的に、“物事を正しくすること”と定義することができるでしょう。このことは私たち一人ひとりに、私たちの隣人に、私たちの国に、そして私たちの教会に当てはまります。教皇フランシスコはこれらの真理を一貫して主張してこられました。

教皇回勅“ラウダート・シ”と“兄弟の皆さん”は、神の愛を信じる者として、またそれゆえに、私たちの共通の家への関わりを信じる者としても、お



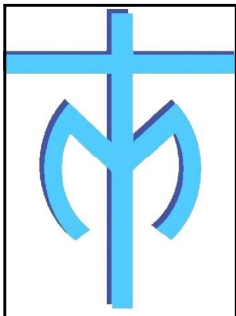


互いへの私たちの関りについて特別に豊かな黙想内容となっています。この2つの回勅を用いて、マリアニスト国際website([www.marianist.org](http://www.marianist.org))はこの四旬節のための特別な焦点として関係を和解させるというこのテーマについて週ごとの黙想内容を載せた特別な小項目を準備しました。皆さんの2022年四旬節に同伴する資料としてこのページを読みこれを活用するようお勧めします。それが、神の慈愛における希望の旅、および全ての神の民と私たちの共通の家への互いの思い遣りと尊重によって受け取られる恵みにおける希望の旅でありますように。

このwebsiteでのコメントの発信、あるいはEメールでの皆さま自身の見解の分かち合いを自由に行ってください：[lent2022@smcuria.it](mailto:lent2022@smcuria.it)

---

## 平和のための祈り



3月25日にロシアとウクライナを聖母マリアの汚れなきみ心に奉献された教皇の言葉で、世界の平和、特にウクライナの平和のために祈りましょう。

神の母、わたしたちの母マリアよ、この苦難の時、あなたにより頼みます。

母マリアよ、わたしたちの願いを聞き入れてください。

海の星であるマリアよ、戦争の嵐の中でわたしたちを難破させないでください。新しい契約の櫃であるマリアよ、和解への計画と歩みを奮い立たせてください。「天の大地」であるマリアよ、神の調和を世界にもたらしてください。憎しみを消し、復讐をしずめ、ゆるしを教えてください。わたしたちを戦争から解放し、核の脅威から世界を守ってください。ロザリオの元后、祈り愛することが必要であることを呼び覚ましてください。人類家族の元后、人々にきょうだい愛の道を示してください。平和の元后、世界に平和をお与えください。

人類をイエスに織り込んだマリアよ、わたしたちを、交わりを作り出す者としてください。わたしたちの道を歩まれたマリアよ、平和の道へと導いてください。アーメン。

---



2022年復活祭にあたりVia Latina 22は復活した主が世界の全ての人々に平和をもたらしてください。祈りながら皆様に心からお祝いを申し上げます。

## 最近の総本部通信

- 計報：8-10号
- 3月30日：総指導者会議（GLA）および新しい行政単位の上長との会議—実践的情報、総本部総書記、Kodjo Frédéric Bini士から行政単位責任者とゾーン議長宛て3か国語で送付。

## 総本部日程

- 4月20日～5月3日：総長評議員会が韓国地区を訪問します。

## メール住所変更

- Renny Markose師 (IN) : [rennymarkose@gmail.com](mailto:rennymarkose@gmail.com)
- Narcisse Anoman士 (IV) : [anomanagoua@gmail.com](mailto:anomanagoua@gmail.com)